

9-6 地震のことを考え、話し合ってみよう⑥ — 自分たちができることを考えてみましょう

地域で起こる可能性がある被害や、実際に地震にあった被災者の体験をもとに、災害時に自分たちはどのような活動を行えるかを話し合います。



災害時に自分たちができる活動にはどんなものがあるかを理解します。



時間軸

実施内容

以下、説明文【例】をもとに進めてください。

1 被災者の体験を聞く (5分)

映像35~37 資料9-5

説明文【例】

(資料9-5を配付してください。)

- 先ほど考えてもらった被害の状況をもとに、地域の中で、自分たちはどのような活動を行うことができるかを考えてもらいます。
- 具体的に考えてもらう前に、過去の災害で被災した方の体験を聞き、被災者の方が当時行った活動や苦労したことを学習します。
- では、阪神・淡路大震災で被災した方の体験について、映像35~37 (体験談) や資料9-5をもとに紹介します。



被災者の体験を聞く

2 地震が起きたすぐあとの活動を考える (10分)

説明文【例】

- 先ほど考えてもらった地域に起こりそうな被害と、被災者の体験をもとに、自分たちができる活動について考えます。
- まず、地震が起きてから避難所に避難するまでに自宅や地域でできる活動を考え、考えられた結果は、1つずつふせん (メモ) に書いておいてください。



自分たちができる活動を考える

3 避難所での活動を考える (10分)

説明文【例】

続いて、避難所での生活のなかで、自分たちができる活動を考えてみましょう。考えた結果は、1つずつふせん (メモ) に書いておいてください。

4 まとめ (5分)

説明文【例】

地震発生直後の内容と避難した後の内容を整理して、模造紙にまとめてください。



模造紙に書いてまとめる

指導ポイント

- 地震直後は119番通報がかかりにくくなります。そのため、自分たちで何とかしないといけないということを理解してもらいます。
- 災害時に行うべき活動は、様々なものがありますが、大人が行う活動と小学生が行う活動には違いがあります。例えば、生き埋め現場での救出活動は基本的に大人が行いますが、小学生もガレキなどを運ぶことは可能です。また、そのために日ごろから資機材の場所を把握しておくことも重要になります。

自主防災組織の関わり方

各グループにはりついて、指導者を補助する役をお願いすることが考えられます。

準備するもの (目安)

準備品	数	備考
<input type="checkbox"/> 映像「体験談」	1	映像35~37
<input type="checkbox"/> 資料「被災者の体験を聞く」	人数分	資料9-5 (配付用)

家庭への持ち帰り

災害時に自分たちでできる活動について、家族それぞれの役割を考えてみてください。

ひと工夫

参加者の中に大地震を経験した方がいらしたら、その時実際に行った活動を聞くと、さらにイメージがわきやすくなります。(経験した人がいない場合は省略)

注意事項

地域の実情に応じて、資料9-5 (阪神・淡路大震災の体験) に書かれていることが、今後考える「自分たちができる活動」にそぐわない場合は、1の部分の講義は省略しても構いません。